

香川メレ優愛ハヴィリ

早稲田大学1年
アルカスクイーン熊谷所属
熊谷女子高校卒
アルカスアカデミー出身
2019年度女子7人制ラグビー日本代表
東京オリンピック日本代表候補



アルカスで「本気」を知った。
だから、今がある。

松井溪南

立正大学2年
アルカスクイーン熊谷所属
深谷高校卒
アルカスアカデミー出身
2017年度18歳以下女子7人制ラグビー日本代表



2020年4月、ユース(高校生チーム)新設 **選手募集!!**

アルカスクイーン熊谷
(大学生・社会人対象)



アルカスユース熊谷
(高校生対象) ※新設



アルカスアカデミー
(小・中学生対象)

「アルカス熊谷一貫指導プログラム」により、
これからの共生社会をリードする人材を育成します。

FOLLOW
ME !!

アルカス熊谷

菅原悠佑
(ユースHC)



「選手の声」

アルカスユース熊谷
山田晴楽
(深谷高校1年)

今年からできたアルカスユース熊谷ですが、できたばかりで人数も少ないということで、入会を決めるまで不安な部分もありました。でも思い切って入ってしまえば、熱心なスタッフの皆さん、アルカスアカデミーの子どもたち、アルカスクイーン熊谷の選手たちが明るく、優しく迎えてくれて、不安はすぐに「入ってよかった」という気持ちに変わりました。

私たちは今、放課後の時間に集まり、週6回練習に励んでいます。これは、今までのクラブチームのイメージと大きく異なるものです。ただ、実際にやってみると、その分チーム愛が強くなり、毎日すごく楽しいです。

アルカス熊谷では、ラグビーはもちろん、女性に多いケガを予防するトレーニングや、強く柔軟な身体作りのメニューも、専門のスタッフが作ってくれます。女性のスタッフも多く、悩みの相談にも乗ってくれます。

来年はアカデミーの子たちがユースに上がってきて、単独チームが組めそうです。私たちと一緒に、最高の高校生活を送りましょう。



NPO法人 アルカス熊谷

〒360-0161 埼玉県熊谷市万吉1700番地

TEL 090-3742-6525(ユースHC) Email ① arukasyouthkumagaya@gmail.com(ユース本部)

Email ② fantasista.saku.1084@gmail.com(ユースHC) Website www.arukas-kumagaya.jp



保護者の皆様へ。伝えたい「想い」があります。

アルカスユース熊谷 ヘッドコーチ 菅原悠佑

本チラシをご覧の保護者の皆様、こんにちは。

アルカスユース熊谷、ヘッドコーチの菅原悠佑（すがはらゆうすけ）と申します。



〈経歴〉

石見智翠館高校女子ラグビー部コーチ（2013～2019）

- ・全国高等学校選抜女子セブンズラグビーフットボール大会4連覇（2013～2016）
- ・サニックスワールドラグビーユーストーナメント優勝（2018）
- ・全国U18女子セブンズラグビーフットボール大会2連覇（2018、2019）
- ・コベルコカップ2019優勝（2019）

アルカスユース熊谷ヘッドコーチ（2020～）

〈所有ライセンス〉

日本ラグビーフットボール協会公認A級コーチ、中学校教諭一種免許状（国語）、高等学校教諭一種免許状（国語）、特別支援学校一種免許状

アルカスユース熊谷の「VISION」（存在意義）

なぜアルカスユース熊谷は存在しなければならないのか。その存在意義を我々は、「『女子×高校生×ラグビー』の可能性を、日本に、世界に発信し続ける存在になる。」と定義し、それを「VISION（ビジョン）」と呼んでいます。

今日、SNSが急速に発展し、その便利さは言うまでもありませんが、数多くの弊害も生じています。その中でも我々は、生身の人間同士による、本来の意味での「つながり」が希薄化していることに大きな危機感を覚えました。人はひとりでは何もできません。常に例外なく他者との「共生」が求められます。しかしSNSなどを使いこなせるというだけで、本当に他者と「つながり」、そして「共生」できるようになったと言えるのか。疑問は膨らむばかりです。

そこで我々は、ラグビーの教育的価値に着目しました。ラグビーは、多様性を受け入れ、仲間のために身体をぶつけるスポーツです。「つながり」や「共生」というものを学ぶのに最適なスポーツこそ、ラグビーだと確信しています。その「ラグビー」を、多感な「高校生」、しかも「女子」が「本気」で行う。そこから生まれる「可能性」は計り知れません。

我々は生徒が持つその「可能性」を、最大限に引き出す組織を目指します。そしてラグビーを通し、すでに求められている「これからの共生社会をたくましくリードする女性」の育成に死力を尽くします。

熊谷に移り住んだ経緯、そして私の「想い」

2020年4月、アルカスユース熊谷の発足に伴い、私は前任地の島根県を離れ、熊谷市に移り住む決断をしました。なぜなら、全国的女子高校生、保護者の皆様にとどうしても伝えたい「想い」があるからです。

私は2013年から2019年までの7年間、島根県・石見智翠館高校女子ラグビー部コーチとして、全国大会優勝7回、世界大会優勝1回という素晴らしい経験をさせていただきました。ただ、これらはあくまで生徒が残してくれた結果に過ぎません。それよりも、ラグビーという競技を通じて「本気」になった女子高校生が見せる、信じられないような「可能性」を間近で目撃することができた。このことの方が私の指導者人生、いや私の人生そのものにおいて衝撃的な出来事でした。

前任校着任当初は、女子高校生がラグビーをすることに、驚きを隠しきれなかったものです。しかし、ラグビーに熱中する彼女たちを目の当たりにし「女子だってラグビーをやりたい」「そもそもスポーツを行うのに性別は関係ない」という根源的な動機をすっかり忘れていたことに気づいたのです。

近年、急速に広がりを見せる女子ラグビーですが、他のスポーツと比較すると、まだまだ競技人口が多いとは言えず、発展途上です。

それでも私は、思わずにはいられないのです。

ラグビーを選んだ女性に、ラグビーを選んだことによって幸せになって欲しい、と。

「幸せ」とは「自身の『可能性』に気づくこと」であり、教育的価値の高いラグビーという競技に「本気」で打ち込むことで、それが実現できる。私はそう考えます。

この「想い」を、私が石見智翠館高校女子ラグビー部の生徒から学んだこと、そしてアルカス熊谷の「一貫指導プログラム」を活かせば、ラグビータウン・熊谷発で、全国の、より多くの女子高校生に伝えることができる。そう信じて疑いません。だから熊谷に来ました。

ラグビー経験は一切不問です。我々と一緒に、生徒の「本気」そして「可能性」を呼び覚ましましょう。